

---

# フローレンス・ナイチンゲール

---

## ナイチンゲールが拓いた道

フローレンス・ナイチンゲール (Florence Nightingale, 1820年5月12日 - 1910年8月13日) は、クリミア戦争で負傷兵たちに献身したイギリスの看護婦 (白衣の天使) として有名だが、実は社会起業家、統計学者、看護教育学者であり、病院建築でも非凡な才能を発揮した。

「換気」に最大の注意を払った病棟を提唱・実現させた建築家でもあり、ロンドンの聖トーマス病院に付属してナイチンゲール看護学校を設立、これは世界初の宗教系でない看護学校であり、現在はキングス・カレッジ・ロンドン (KCL) の一部となっている。

160年余り前に出版されたフローレンス・ナイチンゲールの「看護覚え書」は、その第一章から、驚くべき記述で始まる。

看護 (および住居・生活の健康) の第一原則は、屋内空気を屋外空気と同じく新鮮に保つこと。

そして、窓をあけること・・・

窓の開け方

学校、作業室の換気の重要性・・・という記述が続く。

そうしてなんと！ 空気検査計が絶対に必要であると説いている。

「アンガス・スミス博士の考案による空気検査計がもっと簡便なものであれば、すべての寝室や病室に備えられて重宝するであろうに。もしこの空気検査計が温度計くらいの簡単なものであれば、ちょうど患者を入浴させるときに看護婦が必ず温度計を持参すると同じように、看護婦も母親も管理者も病室や育児室や寝室に入るときは、必ずこの測定器を持参することになるだろう。しかしこれが実用に供されるには温度計と同じくらい単純にして小型でなければならぬ。」

温度計のような空気検査計が絶対必要、とナイチンゲールは訴えているが、当時は、新鮮な空気を簡便に測るものが実際にはなく、そのような測定器は彼女の切望するものだったのである。

それが約160年経った今、CO<sub>2</sub>モニターで実現した！

新鮮な空気は数値として可視化され、誰でも簡便に正確にわかるようになったのである。

ナイチンゲールは、「病気は暮らしのありようの中から生まれ、また暮らしのありようによって癒されていくもの」という。

まだ、微生物やウイルスの正体も分かっていないこの時代に、「感染」を次のように定義している。

「感染というもの、それは病気が広がるひとつの方法であるが、感染が起こるということは、誰かに、つまり医師か看護師か家族のうちの誰かに不注意ないし無知があることを証明しており、また感染が起こるような場所は、病人にとっても健康人にとっても住むに適さない、これが感染の正しい定義なのである。」

さらに、住居の健康の5つの基本的要点として

①清浄な空気 ②清浄な水 ③適切な排水（下水） ④清潔 ⑤陽光を挙げている。このどれを欠いても住居が健康的であるはずがない。これらに不備や不足があれば、それに比例して、住居は不衛生となると指摘している。

ナイチンゲール生誕200年にあたる2020年に、世界は新型コロナのパンデミックを被り、2023年の今年で4年目に入った。

ナイチンゲールの絶えることのない真理への情熱と献身的な努力に裏付けられ、人類全体に視野を広げた確固とした信念と、洗練された理性、客観的尺度（統計学）によって創られた「看護覚え書」。そこで発したナイチンゲールのメッセージには、新型コロナ禍の現在の世界が気付き、認識しなければならない「普遍性」がある。

ナイチンゲールが描いた健康な世界は、今やすべて実現可能なのである。

現代の人々に、「気づきなさい」とナイチンゲールは呼び掛けているのだ。そこには「ナイチンゲールが拓いた道」が広がっているのだから。